

関係性

書式1-③

利用者と地域資源(人)の関係性

○近隣住民

本人との軋轢が生じており、過去5年間近所付き合いが断絶している。民生委員の男性(60歳)だけは、幼少期から本人のことを見守っており、よき理解者。困ったことがあれば、力になりたいと言っている。

○自治会○○組(構成員60名)

本人も加入している障害当事者の自治会。他の会員との関係は良好とはいえず、トラブルに発展しそうなときは、会長(50歳)が、さりげなく周囲との仲を取りもってくれている。

○コーヒーショップ店員B子(30歳)

本人行きつけの、近所のコーヒーショップ店員。優しく笑顔が素敵な30歳女性。本人が好意を寄せている。

利用者と社会資源(人)との関係性

○病院・・・信頼する前主治医(現在は退官)から引き継がれた現主治医により定期受診(月1回)。

○訪問看護・・・週2回利用しており、看護師との関係性は良好。

○生活介護・・・週3回利用。陶芸作製やドリップコーヒーを振る舞う等、興味・関心のあるものには精力的に参加。

○ヘルパー・・・少しでも気が合わないヘルパーがいればすぐに交替。事業所も5か所変更した経緯がある。

○相談支援専門員・・・2年前のセルフプラン作成の補助から付き合いがあり、本人曰く、話のわかる存在。

○母ケアマネ・・・母親の担当ケアマネジャー。本人とのかかわりはほとんどない。

○就労支援事業所・・・働きたいという希望から相談支援専門員が紹介した事業所。就労相談時にはトラブルなし。

相談支援専門員と地域資源(人)および社会資源(人)との関係

○近隣住民(民生委員の男性60歳)・・・担当者会議で初顔合わせ。近隣住民との関係性修復に向けて頼もしい存在。

○コーヒーショップ店員B子・・・近隣関係・就労関係のきっかけとしても接点を増やせたらと模索中。

○自治会○○組(会長50歳)・・・地域協議会等でも顔なじみ。ピアサポーターとしても協力を要請している。

○病院・訪問看護・・・在宅医療の全面的なサポートを約束いただいている。情報共有を密に連携している。

○生活介護・・・旧中支援の要として、密に連携している。

○ヘルパー・・・本人の相談員になってから3回の事業所変更をしており、かかわり方について密に情報共有している。

○母ケアマネ・・・担当者会議をきっかけに定期的に情報共有している。

○就労支援事業所・・・就労経験のない本人が好きなことを仕事にするためにはどうすればいいのか相談している。

チームアプローチの展開でこまっていることへの対応策

演習時に記載